

—さあ、Scienceの帆を上げよう！！—は、全校生徒に募集しその中から選ばれたSSHのキャッチコピーです。本校校歌にある「徳の帆を上げ知恵の舵」に由来するものです。

～1学年 菊池聡先生講演会～

4月30日(木)信州大学人文学部の菊池聡教授が本校にいらっしゃいました。「なぜ疑似科学を信じるのか ～失敗学を学ぶ～」という演題で、1年普通科・探究科生徒201名に講演をしていただきました。高校生になって「探究」する意味を知る上で、「失敗学」は大切です。失敗してやろうと思って失敗する人はいないわけです。人が犯しやすい間違いというものがあるのです。それは、きちんと学んでおかなければいけません。それを「失敗学」と呼びます。今回は「認知バイアス」ということについて講演して頂きました。「雨乞いをするとう雨が降る。」これは正しいのでしょうか。雨乞いをして雨が降ると、記憶に鮮明に残ります。雨乞いをしたら雨が降ったので、嘘をついているわけではありません。しかし、これを統計学に論証するためには「雨乞いをして雨が降らなかった回数」「雨乞いをしなくても雨が降った回数」「雨乞いをしなくて雨が降らなかった回数」の統計と比べなくては本当のことがわからないという話でしたね。1年生の皆さん、覚えていますか??

菊池教授は9/30、本講で実施される大学出前講座でも講演して頂きます。興味のある方は是非講座を受講してみてください。

★1学年 自然観察フィールドワーク★

5月29日(金)に1年生対象の自然観察フィールドワークが斑尾高原と新潟県十日町にて実施されました。

普通科・スポ科★斑尾高原～赤沼・沼の原～

普通科・スポーツ科学科は斑尾高原の沼の原湿原・赤沼で行いました。各グループにインストラクターの方がつき、ガイドを聞きながら、たくさんの自然に目を向けていました。日差しの強い一日でしたが、自然とふれあいながら、終始楽しそうな表情を浮かべていました。ブナ・雪樺などの観察をしたり、湿原においてミズバショウ、リュウキンカなどのスケッチをしたりと身近な自然を知る良い機会となりました。

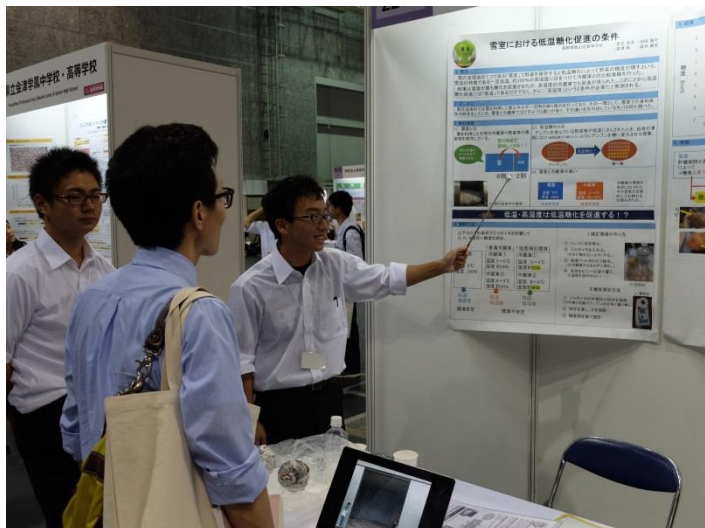


探究科★新潟県十日町～森の学校キョロロ～

探究科は、十日町市の森の学校「キョロロ」にて、行いました。生徒たちは7～9人のグループに分かれて調査活動を行いました。あるグループは、キョロロ周辺の野鳥を観察して、環境による生息する鳥の違いを調査しました。またあるグループは、観光地として人がよく踏み入るブナ林と散策者がほとんどいないブナ林で、土壌の硬さや植物の種数、土壌生物の有無などを調査しました。調査、考察、発表という一連の探究活動の中で、測定したデータをもとに考察し、わかりやすく発表することの難しさや楽しさを感じたようでした。(理科：小口結先生記)



❖ SSH生徒研究発表会 ❖



8月5日(水)6日(木)にインテックス大阪で開催された平成27年度SSH生徒研究発表会に本校探究科3年生の足立良太くん、池田龍平くん、高澤剣くん、富井健至くんの4名が「雪室における低温糖化促進の条件」というテーマで参加し、口頭発表とポスターセッションを行いました。実際に大勢の人たちの前で発表することで刺激され、自分たちの研究内容、その魅力をわかりやすく伝えたいという思いが強まり、声の張り上げ具合を互いに確認しあったりと、発表の仕方を工夫する様子が見られるなど、とても良い経験になりました。(引率者：小口 結先生記)

★参加生徒 3年4組 足立良太くんの感想★

100を超える高校が全国から集まり、それぞれの研究を発表しました。他の高校の研究は、一口に理系といっても、数学系や生物系などの様々なレベルの高い研究が多く、発表を聞くのがとても楽しくて、勉強にもなりました。緊張しましたが、しっかり発表することができ、良い経験になりました。

❖ マスフェスタ全国数学生徒発表会 ❖

8月21日(金)22日(土)にエル大阪で行われたマスフェスタ全国数学生徒研究発表会に本校探究科3年生の川上さつきさん、小林奈央さん、中澤理紗さん、山崎美法さん、弓削眞子さんの5名が「色と香りと計算力の関係～相乗効果を探る～」という研究テーマで参加しました。

発表形式は、口頭発表13分発表+2分質疑応答+3分講評ポスターセッション50分間で行いました。どの学校も課題研究の発表であったり、数学クラブなど課外活動の発表であったり、中身の濃い発表がとても多くありました。本校生徒も、口頭発表では堂々と発表ができ、またポスターセッションでは積極的に声をかけるなど、意欲的な態度でした。コンテスト形式ではなかったため、伸び伸びと発表を行っており、全国規模での発表の場でありながら参加しやすい形態はとても良い機会でした。(引率者：数学 畑田 典男先生記)



★参加生徒 3年4組 弓削眞子さんの感想★

マスフェスタでは、「純粋に数学を追究するもの」身近な現象を数学用いて深く理解しようとするもの」「昔の人の考えを自分たちなりに理解しようとするもの」など数学が用いられる範囲の広さを感じることができて楽しかった。中には大学並みの研究があったり、逆に「先生にあてられる回数」や「席替え」のことなど、すごく身近なことの研究もあり、自分の中の数学の視野が広がったと思う。すごく良い経験になりました。

ご意見・ご要望はこちらへ

飯山北・飯山高等学校

〒389-2253 長野県飯山市大字飯山 2610 番地

TEL 0269(62)4175 FAX 0269(81)1072

URL <http://www.nagano-c.ed.jp/iikita/>

E-mail iikita@nagano-c.ed.jp